

**令和 7 年度
一般選抜（前期日程）**

**看護学科
小論文**

問題・出題の意図・採点評価基準

令和 7 年 2 月 25 日

高知県立大学

問 変化のなかに不変を捉えることには、どのような意義があると考えますか。以下の文章も参考にして、あなたの考えを1000字以内で述べてください。

（配点 200 点）

われわれは外界とかかわるなかで自らの生命を維持しています。かかわりが動きであり、流れであり、変化である以上、絶えまない変化そのものが普通であるばかりでなく、そのなかで獲得された認識器官はむしろ積極的に変化を必要としていることになります。われわれの認識は主体と客体とのあいだに生じる絶えまない変化のなかに、変化を変化としながら、しかもそこになんら変わらないものを見出しているのです。そしてこの変化のなかに不変を捉える基本的なメカニズムを、われわれは長い進化の過程で獲得しているはずです。それがあって初めて外界の変化を意味あるものとして認識しうるのです。

<出典：野村幸正『生きるもの・生きること』福村出版、1992年>

<出題の意図>

人間は、変化を変化として、また変化のなかにあっても変化しないものを認識して生きている。この設問により、変化のなかに不変を捉えることに関する理解力、多面的に捉える能力、自分の意見を論理的に記述する能力をみる。

<採点評価基準>

変化のなかに不変を捉えることの意義として、環境や状況に左右されない物事の本質を見出すことができる、生じた変化を不変のものと対比することによって明確に捉えることができるなど、自分の考えが述べられているかを思考力・判断力の観点から評価する。